

注意しなければならない寄生虫・原虫感染症

¹東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 国際環境寄生虫病学分野

○赤尾 信明¹

人類の生命を脅かす感染症、なかんずくウイルスや病原菌の流行は文明の衰亡や歴史の転換点で重要な役割を担ってきた。それに較べると、寄生虫は数百万年前からその存在は知られてはいるが、歴史の表舞台に躍りでることもなく、深く静かに人類と共存共栄を果たしてきた。そして、あまりにも深く静かに潜行してしまったがゆえに、ついには Neglected されてしまい、寄生虫研究者不要論まで取りざたされる昨今である。実際のところ、臨床現場においても寄生虫・原虫感染症は鑑別診断項目のトリを飾ることが多くなってしまっている。学生時代のノートを引っ張り出してみれば、寄生虫の名前がいろいろと書き連ねてはあるが、それを卒業後もしっかり記憶にとどめている医師や検査技師は皆無ではなかろうか。それもこれも、国内では医師国家試験や臨床検査技師国家試験に出題される寄生虫関連の話題は限られ、寄生虫について勉強しなくても国家試験に合格できるという風評がすっかり定着してしまったからだと考えるのは、演者の妄想であろうか。ちなみに、今年早春に実施された第 105 回医師国家試験問題では、正答に寄生虫名を選択する問題は 500 題のなかでたったの 1 題。選択肢のなかに寄生虫関連用語を含むものは 4 題しかなかった。これではハナから寄生虫をムシしても大勢に影響はないと医学生が考えるのも無理はない。

しかし、いざ臨床の場に出てみれば、ウンがよければ寄生虫・原虫感染を疑わせる患者の診察や検査を担当する機会がまれならずあることに研修医はすぐに気づくであろう。演者の所属する大学の消化器内科では、ここ数年来ほぼ毎月 1 例は裂頭条虫症の患者が駆虫目的で外来を訪れている。学生時代に寄生虫学の試験勉強をしたかどうかはこの際棚上げにして、いま国内の医療機関や検査の現場において、知識の brush-up が必要な寄生虫・原虫感染症について演者の経験を交えながら、以下の項目について話題を提供したい。

(1) なぜ寄生虫・原虫感染症に『注意』が必要なのか。(2) 新しく病原性が確認された寄生虫・原虫類。(3) 寄生虫・原虫感染症の常識・非常識。(4) 寄生虫・原虫感染症の検査虎の巻
今回の教育講演が、これまでややもすれば軽視されがちだった寄生虫・原虫感染症を少しでも身近にもの感じていただく機会となれば幸いである。